

労働者の権利を守り、要求実現を勝ち取ろう！

香川県労連

◎メーデーのあゆみ

【メーデーは休日か】

もうすぐ5月、GWが楽しみですが、日本では5月1日は休日ではありません。「休日になればいいのに」と考える方も多いのではないかですか。メーデーは、国連などの国際機関は「国際デー」としています。祝日とする国も世界で80カ国以上もあり、祝日でない国は少数派です。米国やカナダは「9月第一曜日」をレイバーデイ(労働者の日)として祝日しています。

【1886年がメーデー定着の転機】

もともとメーデーは、労働者とは関係がなく、ヨーロッパ各国では夏になったことを祝う日「五月祭(メーデー)」として19世紀後半まで定着していました。しかし、1886年5月1日、アメリカ・シカゴの労働者が8時間労働制を求めてゼネラルストライキを行いました。2日後に、このストライキで参加者が警察官に射殺される事件が発生し、3日後には労働者集会に爆弾が投げ込まれる「ハイマーケット事件」と言う惨事となり、労働組合指導者が犯人に仕立てられ、処刑されました。しかし労働者はへこたれず、その翌年の5月1日に再びゼネラルストライキを計画し、世界の労働者に拡がることとなり、これが労働者の日「メーデー」として国際的に定着しました。

【労働時間は8時間】

1886年当時は12時間～14時間の労働が当たり前でしたが、8時間労働制を要求するスローガンは「第一の8時間は労働のために、第二の8時間は休息のために、最後の8時間は私たちの好きなことのために」というものでした。



【日本でのメーデー】

日本では、1920年(大正9年)に第1回のメーデーが上野公園で行われました。その後、日本は軍国主義が強まりメーデーが禁止されました。しかし、1945年の敗戦とともに労働者の力が復活し、11年ぶりにメーデーが行われ100万人以上の労働者が集結して、民主人民政府の設立や食料の人民管理を要求しました。メーデーは、その後も民衆・労働者の切実な要求を掲げて実現を求める行動として継続され、今年で第95回となります。

◎全労連のメイン要求

【岸田政権にNO！】

昨年から、春闘賃上げ要求の実現に向けてストライキで闘う労働組合も増加し、今年の春闘では、大手企業労組の賃上げ回答も30年以上ぶりに5%台になっています。全労連系の全国の労働組合は、非正規雇用労働者も含めた大幅賃上げと、地域間で200円以上もある格差を無くし、全国一律の最低賃金することです。その額をいますぐ時給1500円、出来れば時給1700円にする要求運動をしています。6000万人以上の労働者の懐が潤えば消費が改善し、地域経済にお金が循環します。中小零細・商店の利益も回復する好循環が生まれます。国民のための社会福祉予算を減らして軍事費につぎ込むような「岸田政権にNO！」の声と一緒に上げていきましょう。

香川県民労働組合

香川県民労働組合は正規、非正規(パート・派遣・請負・準社員・嘱託社員・契約社員)に関係なく職場に組合が無くても誰でもがひとりで加入できる労働組合です。解雇、ハラスメント、給料・ボーナスの減額、退職金の未払いなど『仕方がない』とあきらめる前に、私たちの労働組合=香川県民労働組合をノックしてください。

みんなで知恵を出し、職場の環境や労働条件を改善するため、また労働基準法など労働者の権利を知るため学習会を開いたり、レクレーションも復活し、楽しく励ましあい運動を進めています。

自治労連香川県事務所

全国自治体労働組合総連合(自治労連)は地方公共団体・公務公共で働く仲間が組織する全国組織です。

その内、ある一定の組合員を有する地方組織の県本部ではなく、香川は小さい組織の県事務所です。自治労王国の香川県で1999年に長尾町職が自治労連に加盟したのが最初で、現在、さぬき市職員組合、さぬき市民病院職員労働組合、香川公務公共一般労働組合の3つの単位労働組合があります。今年度から高松市で学童保育の事業が民間企業である大新東シダックスに委託されました。公務公共組合は昨年春から組合員の身分・待遇の保全を図るために高松市と交渉を重ねました。こうした努力により多くの仲間を迎え、現在111名の仲間がいます。



香川県医療労働組合連合会

香川医労連では「医療と介護を必要とする全ての人を笑顔に！」をスローガンに、安全・安心の医療・介護の実現のため医師・看護師・介護士の大幅増員を目指して、医療従事者の賃金アップや待遇改善の為に闘っています！これらの事を実現させるには、国の決める「診療報酬の改善改定」が絶対に必要です。軍拡より医療のために税金を使ってください。防衛費ではなく医療・社会保障を充実させ平和で人に優しい日本になる様に、共に頑張りましょう。

いよいよ5月1日メーデー



香川県高等学校教職員組合

いま、学校は長時間過密労働が極限に達し、病気で倒れる教員が続出、代替教員は「教員不足」で配置できず、カバーに回る職場の同僚も倒れてしまう「病休ドミノ」状態。生徒はというと、不登校、いじめ、暴力の数が過去最多を更新し、十代の自殺者も五百人を超えていました。学校はいまや限界を超、「このままでは学校がもたない」状態です。今年のメーデーでは、高教組からこうした実態を報告します。さらに県民の皆さんと力を合わせて教育の危機を開拓していくため、県労連主催で小畠雅子全労連議長を迎えて六月二十九日に「教育シンポジウム」を開催します。広く一般の方が多数のご参加をお待ちしています！



福祉保育労働組合香川支部

香川支部では、同一法人の3つの保育園に分会があるのですが、数年前にそれ以外の保育園で働く人が組合に加入し、共に活動しています。最近嬉しかったことは、その点在組合員が同僚に呼び掛けたことで加入者が増えたことです。更に「休憩が取れる職場に変えたい」という願いから要求書提出、団交を行い、休憩が取れるようになりました。

今後の目標は、もっと大きな組織にしていくことです。3分会では非正規労働者の加入が0%なので、そこへ働きかけたいです。そして、保育園以外の福祉職場にも組合の宣伝・周知をしていきたいです。力を合わせて賃金や配置基準をはじめとする労働条件を改善していきたいです！

香川県教職員組合

どの子も安心して楽しく学べる学校、教職員が生き生きと働く学校をつくりをめざしています。教職員未配置、長時間労働を解消するため正規教員を大幅に増やすことを求めます。中学校までの35人学級を高校も、そしてさらなる少人数学級の前進を求めます。また、特別支援学校の過大・過密の解消、特別支援学級の編制基準の改善を求めます。そのためにも、防衛費の増額ではなく、教育予算を増やすことを求めます。